

平成 28 年 6 月 30 日

### 社会貢献活動「ミャンマー学校建設 費用寄付」記事掲載のお知らせ

この度、毎日新聞社のニュースサイト「経済プレミア」に弊社が社会貢献活動のひとつとして取り組んでいる「ミャンマーの学校建設 費用寄付」に関する記事が紹介されました。

次ページ以降に記事の内容を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

## 中堅証券が手がけるミャンマー版「米百俵」の陰徳

浪川攻 / 金融ジャーナリスト

株主総会シーズンである。連日、各所で上場企業の経営陣と株主が厳しいやり取りを行っている。そんなタイミングで、ちょっとした話を紹介したい。わが国証券業界とミャンマーの絆とでもいう出来事である。

こう切り出すと、証券業界の多くの人が、日本取引所グループと大和証券グループの協力によって設立されたミャンマーのヤンゴン証券取引所を思い浮かべるにちがいない。ヤンゴン証券取引所は今年3月に取引を開始した。これは大きな貢献と評価できる。

だが、今回、紹介したいのはまったく別の話である。中堅証券の一角、いちよし証券によるミャンマーへの取り組みである。

### 農村の小学校の新校舎建設を支援

ヤンゴン証券取引所の取引開始に先立つ昨年12月のこと。ミャンマーの中部内陸地域にある二つの農村の小学校で新校舎完成の記念式典が行われた。NPO法人を通じて、その建設資金を提供したのがいちよし証券である。

二つの村とは、ニャウン・ピン・ショウ村とアン・トゥ・シ・ピン・ター村。この二つの村の小学校校舎増築、就学前教育の子供たち用の新校舎建設、そして、生徒用の机椅子セット、教員用テーブル、ホワイトボード、トイレの建設、井戸の水をくみ上げるためのポンプとポンプ小屋の設置などに、いちよし証券の寄付金が投じられた。

アン・トゥ・シ・ピン・ター村の小学校校長は「十分なスペースのある新校舎で、子供たちは快適に過ごせるようになった。出席率も上がるだろう。きれいなトイレを気持ちよく使えることは、生徒たちにも私たちにも大事なことだ」と、いちよし証券に感謝の言葉を伝えている。

いちよし証券が寄付した資金は「役員たちが毎月、給与天引きで積み立てたおカネと、会社の提供資金」（辻信昭・広報室長）である。同証券はこの方式による積立金をこれまでも他のアジア諸国の小学校建設などに寄付してきた。しかし、この事実を一切公表していない。



### 株主にとって「無形の優待」に

ヤンゴン証券取引所のように、わが国の証券市場のスキームが他国の市場創設に生かされるということが素晴らしいことはいうまでもない。この資本市場インフラがミャンマーの経済発展に寄与すれば、それはなおさらである。しかし、それと同じくらい、いちよし証券による小学校建設プロジェクトも素晴らしい。

いま、資本市場では、上場企業による株主還元が大きなテーマになっている。一方、個人投資家の世界では、株主優待制度が投資先企業を選定する際の一つのポイントである。ミャンマー小学校建設資金の寄付行為は、新興国の子供たちが教育を受けるための一助であり、経済発展の礎になりえる。ミャンマー版の「米百俵」と言ってもいい。そのような企業行動を認める株主たちは、無形の株主優待を得ていることになるのではないか。

毎日新聞ニュースサイト 経済プレミア 2016年6月27日掲載

浪川 攻

金融ジャーナリスト

1955年、東京都生まれ。上智大学卒業後、電機メーカーを経て、金融専門誌、証券業界紙、月刊誌で記者として活躍。東洋経済新報社の契約記者を経て、2016年4月、フリーに。「金融自壊」（東洋経済新報社）など著書多数。